韓国ア共弘運動史 前編 民族解放闘争 日本語 訳 VOL 2

目次

第3章 戦闘期

第1節 中国内運動

- 1, 南華轄人 新連盟
- 2, 有吉公使事件(六三亭事件)
- 3. 親日附並若処断
- 4. 戦時工作隊
- 5, 韓国新戦他I作隊
- 6. 臨時政府入の参与
- 7. 朝鮮草典館火申果浩摩舍

発行 黑色牧摆会

300 A

第3章 戦闘期 第1節 中国内運動

| 1931年から1945年までの15年间は戦時闘争の時期である。1931年7月の萬宝山事件直後 同年9月18日の満州事変、1932年2月の第1次上海事件などで、日帝の大陸侵略の野心はだんだん露骨な様相をあらわし始めた。このようにして、1937年に中日戦争に費発展し、1941年に太平洋戦争入と拡大し、日帝は結局墓穴を自帰するために、起こしたものである。

この時期のアナキスト運動は戦闘体制を取ることが出来なかった。中国各地のアナキスト同志が上海に集結した。国内と日本からも若い周士がここに参集した。中国の中心部上海が決戦場であった。しかし国内と日本でもアナキスト陣営の転拗な抵抗

が敵の側面と背後を継続成 していた。

1, 南華韓人 餠 聠盟

戦闘期に近づいた1931年まで、数多117ナキスト樹土が、なお国内11た3ところの監房をうずめており、多くが欲死した。丹斎は松順監獄で服役中であった。又観と晦観として月波(和林)が順次国内で捕えられ入って来た。国内のアナキスト戦線はほとんど壊滅状態になっていた。

この時であった。1929年ソウルを始めとした各地の中小都市で光州学生事件が炒熱した。3・1運動が終った10年後であった。今も民族の精設が生き生きみなぎ、こ

いるということを誇示したものである。

この時期から国内と日本の若いアナナスト、朴基成(守鉱)季何有(鐘鳳)劉山芳などが上海に集って来た。日本での運動の中心メンバー元心昌も中国に渡って行った。楊汝舟(吴冕植)、金芝江(聖寿)、千里芳(李容俊) 羅月燦などの嗣士が中国各地から上海に参集した。自治と、是也そして金野雲と李俊根を失った北海のアナナスト戦線も日帝の大陸侵攻の激浪に押除けられて上海に撤退した。最享得(舜奉)と李康勲がこの隊列に所属していた。このようにして戦線が整衛された。満州事変と上海事をで戦機にも手慣れて行った。今度は砲門を献番だ。新鋭の嗣士を迎えてれた在中国朝鮮無政府主義者連盟の友堂、華岩、鷗波、友槿、柳絮などは、新たに南華韓人青年連盟を結成して、傘下団体として南華侵楽部を置きながら、機関紙「南華通訓」を発刊した。故次龍海の奥第次龍徹も投稿して、李王団体として南華侵粮に投稿して、李王団体として南華侵粮に、李王虎が印刷を引き受けた。

一方中国アナスト行動派 王亞樵,華均実、などが友堂と華岩に抗田関戦線を提議してきた。1931年10月未上海 仏租界で友堂,華岩、鷗波など韓国同志7名と王華など中国同志7名のむ、田 華民(佐野) 吴世民(伊藤)など日本同志が集まり抗日救国連盟を組織して、宣伝、連絡、行動、企画、

財政など五部内を置き、各部内に委員を選出した。友堂は企画委員を引き受けて、王亞樵は財政を引き受けた。武器供給も王の責任であった。企画部では租界外の中国行と仏租界に印刷工場と米穀商店舗をならべ、秘密裡に次のような計画を推進した。

1, 敵軍警機関ならびに輸送機関の調査、破壊、敵要人の暗殺、中国親的30 清

2, 中国各地の排日宣伝による文化機関の動員計画. 宣伝網の組織

3. 前2項の具体的工業(人員と経費に関する)

★ 汪精衛狙擊と厦门日本領事館爆破

日帝は南京政権 機及策で外交部長 包摂工作を進めていた。汪精衛外交部長は対日柔弱外交を重ねていた。抗日運動にとり、親日的行動をする者は初国籍如何を論せず、利敵行為をする敵として看過するめけにはいかながた。抗日教国連盟行動部は汪の処断を決定した。華均実、田華民、千里芳などが上海北軍站で汪を襲撃したのであるが、汪は無事でその副官を誤殺しそうになった。この行動部が世に言う「黒色恐怖団」である。

一方福建省泉州ではアナなト同志が厦内の日本領事館なと暴破した。

★ 天津 日清汽船及び日本領事館爆破

数日連続したこのような爆弾事件を挙げ合せの新聞は抗日救国軍の活動と大書特

筆したのであるが、敵の報道機関はこれを黙殺していた。

↑ 友堂の殉国と密偵殲滅南始

友堂はこの向題を解決するために中国国民党重鎮やえ老アナキストである吴稚暉と香に会い、彼らの助言を求めた。アナキストとアナキストには国籍などの 理りがあるうとも、彼らは 飲飲然とこれに応じた。彼らも抗日戦線での 韓中共同 國事を切実に要望していた。特に満州に対し彼らは深い 関心を与せてくれた。満州でも今般上海、虹口公園での尹奉古義士と同じ義学で、日帝の侵略を阻止するところの一翼を担って下されば、中国政府としては物心両面の支援はもちろん、将来 在満韓僑の権益に対し特別な配慮があるのではないかという意見もあわせて照らして下さった。それは、1910年の国 即以来 友堂が一生涯 忘れないで抱いて来た満州での屯田養安構造と完全に一致するものである。

友堂は勇気を得た。70の坂をながめながら、骨を埋める場所を探とうとした。民族同胞に対する最後の奉仕を誓った。 適地満州に 跳び込み 遊撃隊、便衣隊、破壊団に者肺と農村で一斉に抗日戦線を前く準衛工作をするバン決心したのである。

このようにして、友望は同志産の引き止めを振り払い、1932年11月初旬に上海を去った。しかしそれが最後の道行きとなってしまったのである。

同志は正面の敵よりも、その背後に潜伏した附近着が更に危険な存在だということを実感した。

同志はまず障害物から除去しなければならないと考えた。上海の同志は友堂の満州行を密告した密偵を捜し始めた。この時臨政の安恭根は善惠林と金成根を通じ日本領事館の情報を把握していた。華岩は安恭根に友堂の密告者を探知してくれることを頼んだ。 章思林を通して得た情報によれば臨政の厳某の 延忠烈と季某の甥李太公がその張本人であった。 同志はこれを直接確認しようとした。南華韓人青年連盟の楊汝舟日鷗波,厳亨淳. 南華俱楽部の李達などが南翔に彼らを誘引して彼ら自身の口からその事実を自白するようにした後、彼らを処断埋葬む。 華岩は安恭根を通じこれらより更に悪質な密偵李鐘洪という者がいるというこ

華石は安恭根を通じこれらより更に無質な密偵 季鐘 狭という者がいるというとを知るようになった。この者は 安恭根の妻の 甥 中姪の間柄になる者であり、安は彼の非行を知りながらも 誰にも言うことが出来ない 立場であった。華岩は白八と直接議論した。このようにして彼を除去するように合議した。しかしこの者は延や季のように下手に処理できない 大物であった。 安恭根を中国に置き、彼をまず南翔 立建学院に誘引して 厳 亨淳、李達、楊 汝舟、千里芳などが 一 苛酷な向責を加な彼のすべての非行を自白させて彼を処断 埋葬した。その後彼の死体が発見よれたが中国警察は 共産党がしたこととして死体まで片付けてくし

るという喜劇が演出されるといたこともあった。

2, 有吉公使事件(六三亭事件)

1932年4月29日上海(虹ロ)公園で開催された日本軍官共同の天長節慶祝行事で尹奉吉義士が日本の文武高官多数に爆弾の洗礼を与えるという事件があった後日帝官憲は独立樹士を一細打尽とするのに血眼となっていた。それから、「年が過ぎた頃。

南華韓人青年連盟では、1933年3月17日午後9時上海進駐日本軍司令部と有吉公便が中国政府要人買収工作のために中国料理店 六三亭で宴会席を設けることになったという極談情報を入手した。 建盟はこめを虹口公園事件以来の絶好の機会ととらえて綿密な計画を立てた。 白貞基、襲事者, 厳亨淳、楊汝舟、孝達、李容俊、鄭東吾、金聖喜、朴基成、元心昌、李廉勲は、累次会合を持ってこの陰謀を粉砕する計画を推進した。

拳事実行を全員が争い志願して出たから、最初のもの選定を保留したが、次回会合でクジを引き当選者が拳事実行を担当することにした。クジを引いた結果、白貝基

が当壁し、彼は協力者として李康教を指名した。

両義士は手榴弾大小2個と拳銃2丁で武装し柳3明の引導を受けますぐ共同租界に入て行き、敵の会合場所から200m 位離れている松江春で待機中日警10余名の包囲攻撃を受け、多勢に不勢であり逮捕された。近くで経過を見守っていた元心目も現場付近で共に逮捕された。

これらの子審は上海日本領事館で終結し、7月1日治安維持法違反、爆発物取締罰則違反、殺人子備、器物破損などの罪名で日本の長崎地方裁判所公判に回

附の為一件書類と生に長崎に移送された。

以来、浦上刑務所支所に収監され、11月15日字1回公判が開廷されたが、彼らは指事実を是認した。 検事は 白貞基(28村) 元心昌(28村) 両被告に無期懲役、李康勲(22村)に15年を求刑し、11月24日最終公判で裁判長は検事求刑じおり判決を言い渡した。 白貞基と李康勲は 直ちに上告権を放棄して服役した。また元心昌は控訴したが12月19日 取下げた。 鷗波 白貞基 烈士は1936年5月20日午前5時 獄死した。 六三亭事件に対する国内新聞報道

「今年3月17日上海に居留する朝鮮人白貞基、元心昌、李康勲の3名が有吉公使を暗殺しようとしたが総領事館警察に違えられ子審中であったが、去る7月5日に子響終結し直ちに公判に回附され、長崎地方裁判所に押送されたところの本院で予回公判が開廷されたというが、前記3名は上海の国際黒色テロ団の中心でその順活動に類末、秘密や悪事が明らかになると同時に上海でこれと同じ和団体が隠れていたということを知るようになったが、彼らの潜行類末は大体次のとおりである。

被告 白貞基は1931年11月中旬頃中国人華均実、王亜樵、日本人田化民ンと佐野一郎と共に上海仏祖界 疎斐徳路 某中国人の家 2階で全世界に対する00主義手段によ

各面員は何如なる地方で行動していても関係など初風浴に依拠し各面員の国籍に従い自国に対するXXI作を成す為には日を指定することなく機会あるごとに関行ることにしたという。

同年12月3日頃日貞基は仏租界福履理路資敬坊某煙草店2階で李守鉉(田理芳)に対し、同年同月8日頃仏租界亭元坊某裁縫店2階で金芝江、李達、厳亨淳、楊汝舟に対し、去る2月20日頃自宅で李康勲に対し同団の目的を話し勧誘した後入団させた。このようにして同団を組織して数市で菜市路某中国人裁縫屋2階の華均実の住所初他で団員と会合し時事同題と無政府主義に対する討論を行った。

同団の××工作に使用する目的で彼は、1932年8月頃 華均実から拳銃2丁弾丸20発生、同年9月中 襲撃 華岩から弁当箱大の爆弾とにむりこぶし位の爆弾各一個おっち全て当時の住所である祥順里で受け、去る3月7日頃上記住所で田理等から手榴弾1個を受取った。同団費用は組織後1932年10月まで合計約1200ドルを華均実の紹介で経済部責任者である王亜機から、同年11月以来去る3月まで鄭華岩から合計5~600ドルを受け取り、団員の生活費にあてた。(1933年11月1日 東亜日報)」

この事件を指揮した鄭華岩は次のように語った。

11名同志が集まったが、皆が実行を担当すると申し出た。その中でも鷗波は本当に覚悟をしていた。しかし彼を送り出してほしくなかった。彼は上海での運動の中心人物だったからである。だからグジをすることを提案した。確率は11年1だからである。11枚の中に1枚だけ「有」字が記入された。ところが、その1枚を鷗波が引いたのである。彼は満足な気色で嚢勲の手をよしずかみに握りながら「同志が私と一緒に行こう」と言った。このようにして実行着2名が決定した。ところが、この計画が漏泄したのである。松江春内外にはおそらへ取り代失がしかれていたのだろう。新闻紙に包んだ爆弾を横に置いて時を待っていた鷗波に敵の怪漢が覆いかぶさった。鴎波は呵呵丈笑して起きあがり「こいろはほんとにすばやいなあ。一足遅れていれば、お前達と我々が管ひとつの火柱の中にまかれるところだら

たなあっと言った。こうして この拳事は水泡と帰した。 生存者 李康勲烈士は事件について次のように話している。 大三亭事件(有吉公使爆殺未遂事件)についての手記

1931年 9.18事委以来、日毎は破竹の勢で東北地方を攻めその場で長城を越えて 中国大陸を制圧しようとの気勢を示すおりであった。洋の東西と時の古今を向めず国が七が時に は、忠義烈士が輩出したり祖国を背叛なる思徳漠が込ず、隨伴するのである。日本帝国主義者 は五財七財を教唆し政うの講道を掠奪したのと合似した手法で満州を占領すると同時 に親日漢奸を指図し偽満州国を建て持って口里をでっちあげ全中華を去勢しようという 凶計を恣行していた。時は1933年2月5日、場所は上海仏租界の真中にある亭元坊とい うアパートの2階であった。集った人は白鴎波(白貞基義士)鄭華岩、厳亨淳(舜奉上海 で逮捕され西大门刑務所で死刑にされた) 楊汝舟(吴冕稙,舜奉と共に日帝に死刑 にさいた)李建、李容俊、鄭東吾(海里) 金芝江、朴基成、元勲、李康勲など11人で あった。 玄年 新公園事件後日帝は持てる発悪で独立闘士を一網打尽にしようと策動する も、連絡不充分から安昌浩先生だけが日帝の手に落ちただけである。白凡金九先生以下 革命樹士と 走狗輩を含む日本領事館警察は6平方kmにも満たない上海市内の狭い 仏租界のなかでかくいんしまかような活劇を演じていた。そのようにして、日常は第1は独立運 動の策源地である上海租界で潜伏している抗日衛士を打尽する必要を感じて■。次は 国民党の中に寄生している漢奸を指図して蒋介石将軍以外の要人を味才に引き入いようとい う陰謀を重ねて来たが、初結論を結ぼうという重大な会合が1933年3月17日午後9時 英同租界六三亭で開催されるという確かな情報を得た。この情報の伝達が元勲のロか ら出るや(中略)各々自分が死ぬと譲歩しようとしない形勢が見える。雰囲気を見ていた鄭 華岩が、今日は自分の主張をひとまず置いて、一日冷却期间を置いて熟考した翌日この場 所に再び集まれ、最後の決定をしようと発言したので、との意見に従い翌日同じ場所で同じ 人員が集合し(中略) 選抜する方法はクジによることにして、鄭雄岩がクジリ枚を作り帽子 のなかに置いてませた後各四自任意に抽選すると、白義士と李康勲2人が選抜立作。

この決定があった後3月17日まで約40余日间準備の万全を期するために総参謀格である鄭華岩をはじめとして柳3明、李圭虎(李会栄の息子)などが互いに連絡を緊密している。

日皇の使臣 有■吉 明が 日本町参謀部員及び政客を連水中国の失意政客と将領を迎えて、そびい、整備のなか六三亭に到着したのは 3月17日 夜&時頃であった。

白·李両人は武器を携帯して元勲及び柳子明と同じタクシーに乗り仏租界の勝接地にある津津茶館を乗て、後日地下で至いに会うことを約束して柳と別山たおとに一路英同租界に入り触の会合場所から約200×-トル位の道端にある松江春で待機中に日警数十名に包囲され衆貿寡不敵で逮捕された。等事もる模様を遠くで観望しよ

うと現場付近まで一緒について来たえ軟が共に逮捕されたことは意外な事実であった。 。この事件を中心とした内外の情勢

満州事をも調査するために国際連盟で派遣したリットン調査団の勧告も拒絶した日本は、内ではち、15事件を前後し民心が散乱していて、外では9・18事をも契機に日本に対する列国の憎悪心がだんだん濃厚になった。また中国人の抗日ボイフットもいっそう甚だしくなった。日本は内外で多端な苦境に立たされるようになり、直ちに何らかの局面打雨の必要にせまられていた。当時事実上日本の権力を主導していた軍部の荒木貞夫(陸軍大臣)は日賃4000万円を有吉公使に委託して中国の敗戦軍府、失脚政治家を買収しようという陰謀をもくろむようになった。そのようにして、彼らの凶計は中国人同工が相等うことない抗日意識を去勢して、次は中国人の力を借り我ら独立運動者を一網打尽とすることが主目的であった。

ところが我ら独立運動戦線は満州事変後新い日段階に入っていた。意志藻弱な者は変節漢となって敵に帰順しあるいは彼らの案内役、手先になるうとも、大体の抗日廟士は自己の立場に従い北京・上海など入、或いはソ連七命の道を取るようになっていた。抗理力闘争の温床である南北満には小数の遊撃部隊を除りしては抗日独立運動は一時的ではあるが終息した感がないでもなかた。そのようにして、多くの憂国志主の心には直接行動で自身が敵陣に内迫し昇華しようという情熱が高まってくるようになった。そうした情勢のなかで革命精神を导場させることと、この民族は永遠に不死身だということを示すためにも新局面打開する位の事件を起こす必要があった。このような時に、ちょうど日帝の薦くがき凶計があることを探り出した。私達はこれは得がたい好機だど考えて、互いに死を争いながら、学義しようとしたものであった。この度の学事は敵の不義な陰謀を暴露させ、全面的中日戦争勃発の時間を短縮させようとすることに意義があるものである。例えテロであっても、とれ自体失敗したとしても、私たち民族の光復運動史にきらびやかな光を加えたならば、無形でも受けた収穫は大きいものであった。41次にして長崎窓は中に殉節された自義もの義理固い姿を再び心のうちに刻みこみながら、彼の最後の瞬間まで体験を失にに同志は述べてきた事事件の輪廓とその意義を指摘しながら筆を置く。1964年4月李康勲